「殺生石」物語考

物語の概略㉒

金毛九尾白面の狐退治の顛末をお聞きになった、鳥羽天皇の叡感は浅からず、安倍泰親、三浦介、上総介、那須宗重らに多くの恩賞を与え、泰親は昇殿も許された。

時がたち、世は、鳥羽天皇から崇徳、近衛、後白河天皇へと移った久寿二年（一一五五）、那須宗重より、石魂が人民を害しているとの注進があった。朝廷はやむなく、今は年老いた泰親を那須野に派遣し修法を行わせ、これを鎮めさせた。

やがて、保元の乱、平治の乱と世は乱れ、鳥羽法王も宗重も亡くなり、毒石のことはいつか沙汰止みになった。が、十数年後の承安の頃には又、毒石に近寄って死する蓄獣や、空飛ぶ鳥が死骸の山を作り、人々はこの石を「殺生石」と名付けた。

ここに、殺生石の怨念を教化しようと、紀伊国紀三井寺の高僧浄恵は、朝廷に申し出て勅命を受け弟子二人と共に殺生石に赴いた。一行は二町（約二百米）ばかり手前より、経文を読誦しながら近づいた。が、生臭い風が吹いてきたかと思うと、忽ち、弟子二人が即死した。これに驚く間もなく浄恵も又、地に倒れた。播磨国（現兵庫県の一部）、書写山の了空坊も、世に名高い知識、悟道の名僧であったが、師弟三人、同じように那須野の露と消えた。遥かに年を経て筑前国（現福岡県の一部）新浄寺の道喜阿舎利も又、弟子四人と共に、教化を試みようと殺生石に近づいたが、怪風にあたって死したのは、浄恵や了空と同様であった。

この後、教化を試みる高僧名僧はいなくなり、この毒石に近づくものは誰もなかった。ただ、無心の禽獣のみが夥しく命を落とし、殺生石には不気味な雰囲気が漂った。

筆者　前那須歴史探訪館 館長
齊藤 宏壽 先生（湯本在住）

今月のひとこと

人形の土方もいて菊祭り
ここは戊辰の戦の城址

かっこう

時折激しく雨が降った10月22日、大勢の来場者を迎え、天皇陛下のご即位をお祝いしました（7頁）。芸術の秋にもふさわしく、会場は室内オーケストラによる優雅な音色が響き渡り、心が少し和んだのを覚えています。災害が続き胸を痛めた月でしたが、新しい令和の時代、平和と幸せを願うばかりです。㊞

関東地方を縦断した台風19号（9頁）。町内では避難所を6カ所開設し、一時400名を超える町民が避難しました。避難所運営に従事し、1番に感じたのが地域のつながりの強さでした。自治会や民生委員、消防団員、近所の方による巡回や見守り、声掛けなどの地域ネットワークは、有事の際に大きな力を発揮することを実感しました。そして避難所での「助け合い」「協力」がありがたかった。㊟

保育園のりんご狩り（25頁）では、千振の玉田りんご園に行きました。子どもが大好きなりんご。収穫の前に、園児たちはりんごを試食。おかわりを競うほど夢中で食べていました。

外国では昔から「1日1個のりんごは医者いらず」と言われるほどりんごは体に良い果物として知られています。

立冬を迎え、冬が始まります。りんごを食べて、冬も元気いっぱいに過ごしましょう。㊟

こんにちは赤ちゃん

高久 桜羅ちゃん（高久甲）

平成30年4月26日生

父 哲さん　母 瑠惟さん

桜羅ちゃんは…
歩くのが大好きな
おてんば娘です！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課秘書広報係（☎72-6901）まで。

町の世帯と人口

（10月1日現在・住民基本台帳）
（ ）の数字は前月比

・世帯数	10,381世帯	(- 4)
・人口	25,136人	(-19)
	男 12,491人(-6)　女 12,645人(-13)	

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。
お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。

11月8日発行（月1回）／発行：那須町役場（〒329-3292栃木県那須郡那須町大字寺子丙3-13）編集：総務課（☎72-6901　FAX72-1133）
那須町公式ホームページアドレスhttp://www.town.nasu.lg.jp/